

国内有数の国際観光地・箱根が考えるジオパーク —北と南をつなぐ自然のみち 東と西をつなぐ歴史のみち—

山口 昇士^{1*}
YAMAGUCHI, Nobuo^{1*}

¹箱根ジオパーク推進協議会 会長（箱根町長）

神奈川県西部に位置する箱根町、小田原市、真鶴町、湯河原町の1市3町は、首都圏にありながら箱根火山の恵みである温泉をはじめとする豊かな自然を有し、年間3,000万人を超える観光客を迎える全国有数の国際観光地として発展を続けている。しかし、今後ともこの地域の観光を発展させるためには、様々な観光資源に、地域の自然や歴史文化を反映させた奥行きや深みを持たせていく必要がある。

箱根地域がジオパーク運動に取り組む理由は、地域の多様な資源を地質的な観点という新しい視点を提供し、地域住民が自らの地域を再認識し関心を深めるとともに、観光客にさらなる感動を提供するためである。

今回、箱根ジオパーク構想を推進するにあたって、本地域の地質・地形的な特徴として重視したのは、箱根火山が、伊豆・小笠原弧が本州弧に衝突したプレート境界域に位置し、南北にのびる天然の障壁をなしていることである。この火山は、40年以上に及ぶ複雑な形成史を有し、その起伏に富んだ地形は、天然記念物に指定されている動植物を含む多くの生物の住処となっている。

一方、本地域の歴史や文化は、南北に延びる天然の障壁をめぐる人々の営みとして捉えることが出来る。日本の歴史を形作ってきた東海道は東西を結ぶ努力である一方、小田原城や石垣山一夜城、箱根関所跡などは、かつてあった東西の摩擦や緊張を今に伝えている。

表題に掲げた本地域のジオパーク構想のテーマは、以上のような認識によるものである。

箱根ジオパーク構想の推進は、行政や事業者、NPOなど地域が一体となって設立した、箱根ジオパーク推進協議会が担っている。本協議会では他の地域でも見られる取り組みも数多く行っているが、これまで特に力を入れてきたのは、ガイド養成である。大観光地である当地域では、多くのボランティアガイドが長年活躍している。協議会では、こうした方々を対象に講習やジオツアーを開催し、既存のガイド内容に地質や地形の観点を取り入れてもらう取り組みを進めており、好評を博している。

本地域のように既に成熟した大観光地がジオパーク運動に参加することは、日本のジオパークの多様性を増やし、ジオパーク運動の認知度を向上させるものである。箱根地域の取り組みは、こうした理由から、日本のジオパーク運動に大きく貢献するものと我々は考えている。